

## 宮古島におけるクロツバメの大発生(2015年)

砂川博秋※

はじめに

クロツバメは、「奄美大島から与那国島まで分布しており、大きく奄美亜種、沖縄亜種、八重山亜種に分かれる。宮古島の少数個体は、沖縄亜種に近いものと八重山亜種に近いものが混ざっている。」(日本産蛾類標準図鑑Ⅲ)と記載されている(写真1)。昼行性の蛾で、夏から秋にかけてシロノセンダングサなどで吸蜜しているのが見られるが、ふつう個体数はそれほど多くない。宮古島の大野山林には、この蛾の食草となるアカギが広範囲に植えられている。筆者が本種の発生の多さに気付いたのは2015年9月8日で、大野山林の西側のアカギの葉はまだ大きく被害されていなかったが、道路そばのおよそ40mの範囲のシロノセンダングサに、成虫30頭が訪花していた。その後、同じ場所で観察を続けたところ、

9月9日 113頭

9月12日 260頭

9月17日 36頭

9月19日 13頭

を確認した。

この時期に植物園の北側(大野山林中区)と東側を調査すると、アカギの葉を食べる大量の幼虫(写真4)や、アカギに垂れ下がった大量の幼虫(写真5)、葉を食い尽くされたアカギが見られた(写真6)。その後、10月上旬に西側のシロノセンダングサに集まる成虫個体は1~2頭であったが、道路沿いおよそ20mの範囲で観察を続けたところ、成虫数は、

10月17日 17頭

10月18日 26頭

10月21日 40頭

10月24日 76頭

10月27日 124頭

10月29日 86頭

10月31日 84頭

11月2日 46頭

であった。

その後、年末から今年(2016年)の春先まで、2015年のような発生は見られない。なぜ、2015年の秋にあのような大発生が起こったのかははっきりしたことはわからない。

引用文献

広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則(編), 日本産蛾類標準図鑑Ⅲ. 学研教育出版  
330pp

※宮古島市平良字西里 529-1



写真1 クロツバメ成虫



写真2 クロツバメ幼虫



写真3 正常時のアカギ



写真4 クロツバメ幼虫



写真5 垂れ下がった幼虫と糸



写真6 葉を食い尽くされたアカギ